

用語に関するお知らせ

日本歯科麻酔学会雑誌に投稿される論文の用語については、その使用法にかなりのばらつきがみられます。学会誌としての統一をはかるために、執筆者は、下記に示すような内規に従って執筆されるようにお願いします。

1. 薬剤名は原則として最新の日本薬局方に収録された名称を使用する。ただし日常使用されているものは、必ずしもそれに拘束されなくてもよい。

〔例〕 笑気、アドレナリン

商品名の場合はカッコを付して右肩に®あるいはTMの記号を入れる。

〔例〕 フルルピプロフェンアキセチル（ロピオン®）

2. 日常繁用される薬剤を含む用語については、なるべく日本語カタカナで記載し外国語を避ける。

〔例〕 atropine sulfate→アトロピン硫酸塩水和物
shock→ショック

ECG→心電図

barbiturate→バルビツレイト

Opystan®→オピスタン®

monitor→モニター

3. 略語には省略を示す点は付さない。

〔例〕 S.C.C.→SCC, G.O.T.→GOT

4. 常識的に使用されている略語については、特に省略であることを示さなくてもよいが、あまり一般的でないものは日本語で記載する。

〔例〕 血清アルカリ性フォスファターゼ活性値→ALP, 血清 GOT 活性値→GOT

5. 外国語は原則として日本語化しているものはカタカナを用い、その他は原語で記載する。

〔例〕 チアノーゼ、ボンベ

6. 「薬」と「剤」の使用法は、統一がとれていれば通常の使用法でよい。

〔例〕 麻酔薬（剤）、昇圧薬（剤）、筋弛緩薬（剤）

7. 特殊な造語は恣意的に使用しない。

〔例〕 Dental Shock, Hirnanaemie, Dental IQ

8. 慣用されてきた用語の使用に注意すること。

〔例〕 GOS→笑気・酸素・セボフルラン

逆行性挿管法→逆行性誘導挿管法

9. 呼吸機能および血液ガスの記号ならびに略号は、下記のように記載する。

$\dot{V}O_2$: 酸素摂取量, ml/min, STPD

$\dot{V}CO_2$: 炭酸ガス排出（産生）量, ml/min, STPD

R: 呼吸交換率

$\dot{V}I$: 吸入換気量, 計算または数式を導く過程で現れる量

$\dot{V}E$: 分時換気量 ($\dot{V}I$ と対応して用いるときは呼出換気量), l/min, BTPS

$FIO_2, FICO_2, FIN_2$: 吸入気 O_2, CO_2 および N_2 濃度（分画濃度）

$FEO_2, FECO_2, FEN_2$: 呼出気 O_2, CO_2 および N_2 濃度（分画濃度）

DlCO: 一酸化炭素肺拡散能, ml/min/mmHg, STPD

$PAO_2, PACO_2$: 肺胞気 O_2 および CO_2 分圧, mmHg

$Pao_2, PaCO_2$: 動脈血中 O_2 および CO_2 分圧, mmHg

$P\bar{c}O_2$: 平均肺毛細管血液 O_2 分圧, mmHg

\dot{Q} : 心拍出量, l/min

$CaO_2, C\bar{v}O_2$: 動脈血および混合静脈血 O_2 含量, ml (STPD/l)

$FAN_2, FAO_2, FACO_2$: 肺胞気 N_2, O_2 および CO_2 濃度（分画濃度）

V_T : 一回換気量, ml, BTPS

f: 呼吸数, /min

V_D : 死腔量, ml, BTP

\dot{V}_A : 一回肺胞換気量, ml, BTPS

\dot{V}_D : 死腔換気量, l/min, BTPS

\dot{V}_A : 肺胞換気量, l/min, BTPS

\dot{V}_A/\dot{Q} : 換気・血流比

A-aDO₂: 肺胞気-動脈血 O_2 較差, mmHg

\dot{V}_{AI} : 吸入肺胞換気量, 計算または数式を導く過程で現れる量

V_D/V_T : 死腔換気率

心拍数, 呼吸数, 脈拍数の単位の表示について

<和 文> 心拍数・脈拍数 回/分

呼吸数 回/分

<英 文> 心拍数・脈拍数 beats/min

呼吸数 breaths/min